

IPM実践指標(こまつな)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点		
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する等の改善を行う。	1点		
	播種密度	適正な播種密度とし、風通しをよくする。	1点		
	飛来性害虫の侵入防止	目合い0.8mmの防虫ネットをトンネル被覆する。	1点		
	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点		
		フェロモントラップを設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点		
		近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点		
	作物の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点		
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前後で最低1回はクモ、寄生蜂等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点		
	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点		
		播種時に粒剤を処理する。	1点		
		天敵への影響の少ない選択性殺虫剤(IGR剤、気門封鎖剤等)を利用する。	1点		
		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1点		
	作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点		
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点		
個別項目	萎黄病	耐病性品種を選択して作付けする。	1点		
	白さび病	収穫間際に発生することがあるため、茎葉が繁茂しないうちに薬剤の予防散布を行う。	1点		
	ハスモンヨトウ	共通項目の励行(特に、若齢幼虫を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点		
		生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点		
	キスジノミハムシ	夏期は収穫後に畝面をビニルで被覆し、土中の幼虫等を熱殺する。	1点		
			合計 点数		
			対象 IPM計		
			評価結果		